

東京第四隊新聞誌

36

FEBRUARY  
26th  
1955

Vol. 36



創立

周年

記念号

目次

永遠のスカウト	小崎忠雄	2
そなえよ常に	篠沢 明	3
第四隊の歌集と祈る	犬養政文	4
ラカー(龍)	石川正己	5
想い	志山兼典	6
私のアルバム	今田富士雄	7
僕の思い出	川崎 豊	8
八回目の誕生日 おめでどう	杉原 正	9
山岳部員と おしゃべり	宇村裕也	10
お祝いの言葉	白井喜久子	11
スカウト生活	渡辺 澄	12
米君天いに語る	飯田貞雄	13
表彰されるスカウト達		14
ニエーヌ		16
四隊三年表(へ上)		18

沖田隊の誕生日を御祝いたします。  
いつのまにか赤ちやんが小学校の  
二年生になるのですから……。い  
つまでも隊が栄えますように祈りま  
す。

スカウト運動が戦後おきたのは丁  
度八年前のことでした。そのころは  
今のように楽しく遊ぶ所も仲間もあ  
まりなく、敗戦直後のことで食物も  
充分はなく、人々

の顔は決して明か  
くはありませんで  
した。そのような  
時、私にちを集め  
て楽しいあつまり

が始まりました。私はそれから四  
年間ほど、隊員としての生活をした  
のです。

隊員としての生活は短い期間でし  
たが、さいわい今もスカウト精神が  
私の生活の活動を助けてくれていま  
す。

皆様も良く知っていただきたくしよ  
うが、スカウトの根本精神は、ペイ

## 永遠のスカウト

小崎 忠雄

予ニパウエルの時から現任に於ても  
変ることなくなされていきます。しか  
し現在の日本のスカウト運動をみま  
すと、自分勝手な精神を作っている  
人が多いことも残念に思っています。  
しかし、さいわい私にちの沖田隊  
は創立当時より現任に至るまで、良  
き指導者と協力者を持つことが出来  
ましたので益々栄えています。これは

隊員諸君がスカウト精神を良く理解  
されていながらだと感じます。

私は、最後に、良きスカウトとは  
次のようなものだと考えます。

スカウトの日記簿に書かれています  
ますが、「一度スカウトであったも  
のは、一生スカウトである」と言う  
ことです。それは、ユニバースに着  
ている時ばかりが、着ていない時で

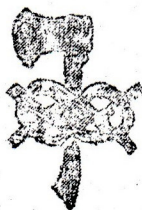
も、又、一人でいる時でもスカウト  
として恥しくない行動の出来る人  
であることです。又、成人して、隊に  
直接関係を持たないようになっても  
一生のあいだ良きスカウトであるよ  
うに努力する人も、良きスカウトで  
あると存じます。

私は、現在直接隊員としての関係  
はありませんが、良きスカウトにな

るように努力して  
います。それはス  
カウトのチカラと  
オモテが成えてく  
れる手印なのです。  
この記念すべき

良き日に、良きスカウトになろうよ  
うに努力しましょう。

(筆者は盛南坂教会学校教師。  
くまびと現代作家。)



# 常に上へなそ

## 明 沢 篠

誕生日あめでとら・ひよいと満八才になつて、人間なうさしずめ小隊二年生と言ふ所でしょうが、四隊のそれは、もう中学二年生になつた様なものです。ホーイスクウトなら丁度隊長が隊長の人もいるだろうな。そして皆もう一級又は二級の人達ばかりでしょう。所で四隊もこれからが大変です。これがいんじん成長して日本のスカウト隊の指導隊にならなければなりません。その為には、今の状態で満足せず、もっと外に何かける隊になつて下さい。仮入隊の人も隊付の人も班員も、みんなが四隊の隊員として、同じ命令の子供達のリーダーになる様に努めて下さい。

人達で、野原の練習の話を忘れた。うな人が居るので話さなくてもいい。警も私も、モットも覚えていて下さい。

その、そなえ上帯に、口ついて私の経験した事をお話しよう。

それは一昨年の夏でした。休暇中に旧師を訪問しようと思つた。中央隊の校行に乗り込みました。乗車してとうとう着きました。が、隣りに乗った数人の学生連へ山へ行くと、藤子でした。がうさくで寂りたので、あても二、三十分お休ませようか、あたりが騒がしいので目を開けてみると、最前の子供達が哭物の皮をむいて、うらうらに、あやまつて手を切つたらしいのです。鼻紙が何かであさえながら血が止らない等とわいわい言っていました。私はふと気がついて靴から救急箱を出し、かきこに薬をつけて、これをどうやらと言つてパンソリ帯でとめてあげました。これで静かになりましたので、それからぐっすり眠るでもありました。

少々の驚意と僅かの恥かしさを噛みしめよう。

そのうちに夜が明けかけて、序を立つ人も多くなり、さつきの学生連も次の隊で降りるらしく用意を始めました。尚もなく隊に泊りて寝るつもり降り始めると、その中のリーダーの人が、どうも困難うづまいた。これ少しです。喉を潤して下さい。新聞紙に包んだものを差し出したので、いや、別に僕は……とこんた……と何を言つてよいかわからずにいきました。心の中で、スカウトな……どうしたらよいだろうと考へま……に、その人はほんどん降りて……、汽笛は動きました。車の……から去りゆく車を見送つて、赤い……しました。――揺、七、スカウトは脱腹である。――おやあ、これはスカウトの道から少し脇へそれた所ですね。

(才二代上級班 長。才二代ス マイル編隊長)



沖田歌の諸君、八周年お目出とう。  
先日、スミイル誌に何か書いて下さ  
いと依頼も受けた時、非難になつた  
しく感じました。何も役立つか  
未存いま、過し

色々の彩となつて  
松の記憶を呼び起してくれた  
からです。創立  
者、今井初代隊長、  
長、シイリアム  
ス氏の努力に依  
て発足した沖田  
隊、日本一五歌  
な隊にする努力  
かされ、人達の  
希望を、頼むを  
立派に承えてく  
れたのが沖田歌  
のスカウト諸君、  
ピフエのです、本  
スカウト諸君の努力は勿論、父兄の  
方々、教員の方々の協力御援助が正  
常な裏を結んでのです。諸君は、諸

## 第四隊の彌策を祈る

### 大屋 政夫



君の先賢達が斜り上げた才四隊をよ  
り並べにすき熱努力して下さい。

五歌のスカウトは、ほんな奉徳、  
ほんな事件が眼前に發生してちか  
しもしません。スカウト運動は、毎  
時如何なる所でも役立つか事が  
林になる為にはベトナム、バヤエム  
が始められた運動です。自分自身の  
為に、と思つて物事をなす事は誰に  
でも出来ませう。然し人間は只  
一人では生活出来ないので、皆が  
協力してこそ立派な運動が出来る  
のです。他人の為に、と思つてなす  
事は守は事なすので、皆して是を  
一人間が一人でも多く熱心な  
ボーン、スカウトの云ひを  
子後世に傳へば、次の御言葉を  
として居ります。

日人の出世路にならぬよう、

人の出世路を下さうよう、

そして我々の求めぬよう、

良きスカウトは我々の後進の立派な  
あり、將來は立派な社会人になる事  
が出来る事です。是非とも同時に諸君

は良き指導者になられるよう、  
よき指導者、よき社会人になる為  
に良きスカウトであるよう努力して下  
さい。

スカウトの生活には「計画、実行、  
反省」が繰り返す。五歌の人間は  
言ひかける人達だ、言、実行して良  
人達です。何をなして良いか、今  
良き指導者になるかと言ふ事に對しては  
トロムルで我々は指導者の方々に對  
して、自信と謙遜の心をもち、  
実行してこそ、立派なスカウトと言  
えるのです。

五歌のスカウトは、將來諸君は  
出来上った社会人になるのに入つて  
行くの心と努力を要する。諸君は大工  
さんが障子やふすまの障子建具を家  
に取り付けるときを見た事があります  
か。障子やふすまは滑りかたに動い  
てこそ役立つのでしよう。然し取り  
付けるとき、障子の糊を塗りほしま  
せと糊は後から入ると滑り障子やふ  
すまは正しく滑り取って取り付けてい  
ます。此の様に人間も社会と言ふ

出来上っているものの中に入つて行く鳥には、自分自身の凸凹している所を削つて滑めらかに行く様にしなければならぬのです。然し、二時半時にビクビクする必要はありません。丁度、碧玉をころがしていると段々大きくなる様に、人格を付けていくような努力して下さい。先輩達は常に諸君達の良き踏み台となる事を望んでいます。先輩の作ってくれた

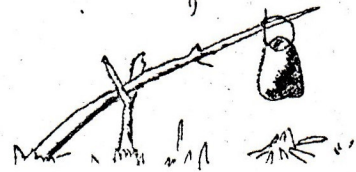
# ラダー（舵）

鷄い空に横乱雲が円いこぶだらけの頭を陽にかがやかせている。メストの上に三角の小さな赤旗が風にしばたいている。楯にくだける白い波。形の良い曲線を見せて風にはらんだセルのまばゆいばかりの白さ。ヨツティンガは一つの豪快なスボーツである。凡のなほとき、大をくしわのよつ

階段を昇つて、より高く階段を造り上げて行く事がスカウティンガなのです。

諸君の五激なスカウティンガと、中四隊の永遠の輝きを、心よりお祈り申し上げます。

（中二代隊長）



# 石川正己

たセルも、艇内に寝そべって仰ぎ見ながら、色々と考へる時間を待つことと、じつとあせらずに待つことを学ぶ。

強風をまともに受けながら、大自然と斗ひ、艇を目的地まで操るとき、風が吹きまくり、波が白い波で箱をかめばか程、自然の力いさを強く敵へられる。そして教しい航走のあ

に到着した目的地は、順目のヒそのそれ以上に大いなる喜びをよへてくれるものである。風と波とを、潮流と地形とを、自からの判断で帆の出し方を求め、舵のおさ方を決める。人の一生は、航海である。平穩無事な日々は素な生活である。しかし、快晴、波せりとさう日はさう数多くあるものでない。

苦しいときこそ、その人の力がわかるのである。苦しいときこそ、眞の友情を受けるのである。

この狭い国の中に、一人でも心の広い人の多くあることを望み、その一人になる様に自分自身に言い聞かせている。

今年から、年長隊、又一つ上のロープアーが出来る。僕はその人たちにセーリングの持つすばらしい力を伝えたい。



（ロープアース・アドヴァイザー）

想の

想い出とは  
須く感傷的な  
ものなり

兼



スカート

ぼくだって

スカート

と言った

かも知れない

五年生

むかし

むかし

をなつかしむ

ぼくたちの

荒んだ

心

暖かく

母さま

のように

そっと

想い出は

日暮し

の瑞々夕暮

眠れぬ

せせらぎ

鳴く夏の

蟲

×

沖たく

望い石

壘

派

を出して

泣きもした

肥

を細み

頭

を抱え

頭

に左手を

オドロキが

縁がある

秀は

突った

遠いもの

想い出は

ぼく一人

のもの

Sub. #455



(本名 遠山兼次 飯付 弟三代上総経長)

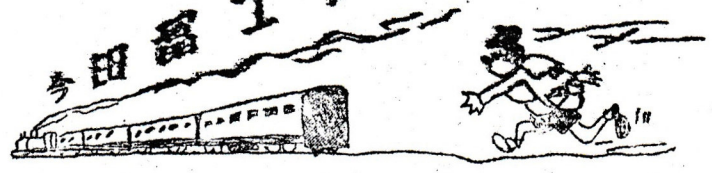
ある心と思いついて、スカウトの写真を整理してアルバムを作るとを思いついた。

直ちに実行にうつり、写真の箱をひっくり返し、年代別の整理を開始す。

昭和廿二年、今から八年前、あるある、競艇場をかぶつ志水が隊長・勿論エニアオムなれない。ただあるのは愛と青のネズミチーフのみ。それも五月十七日の第一回ラミーの時初めてつけたのだ。その時、皇太子殿下、故ウラナカン神女などがあ見えになつたが、我が四隊は結果、湯わかし、を行なつて注目の的となつた。その頃は日本に話スカウトが東京に五ヶ隊、横浜に二ヶ隊のことで我が四隊も隊員は十四名、白し隊を

# 私のアルバム

## 雄士富士



ライオン社がニヤ経、懸賞が五月、入隊費十月、ネツカサーフ十月、何をやるにこころよ。

初めてのキヤンパは式義引回で五球と一器に打ったが、秀加使百円、今とちがって食糧事情が悪く、五球の連中は主食の芋をこすモロコシの粉とこが煮や飯米のめした、たので大か騒動が持ち上がった。その頃は今のリーザー達が中津三年、遠海各たちで相争六年でこのキヤンパに秀加秀未なかつた。廿三年になると、そろそろキヤンテックスで果敢と、隊号章を作

り、制服(？)も工夫して作るようになった。三月廿九日最初の全夜ハイク、秀守、伊東、行の、伊東、ア、

ルで急いでアを出した。此の頃は大会あつちこつちに顔を出した。キヤンパも静岡、瓜島と大移動キヤンパを行なつたが、この時はにがい経験がある。ヘスマイル廿二号(参照) 中日風ワアマリカンス

クルルではコリス四隊の名を高からしめ、七月十日には参院会で米國スカウトの議長ウエスト氏の遠慮式があり、多数の出席が集まつた。廿四年二月廿五日、忘れもしないあの大会をアフレーションヨングエイスクライムAのコンビではこの時から始まつた。出陣着廿五。行撃すべきことば、五月廿五日、正に加盟承認され、七月には今井隊長が飯米色丸をこころよ。九月には全日大会が皇居前で行なわれて大いに盛況し、新聞紙スマイルも此の月に第一号が発刊された。廿五年はウサギ狩りに、関東大会に、四隊の底力を示し、オ二回全国大会には東京連盟の全国旗の旗号としてはり切つていたネ。そしてその



そりりターになる準備をせねばならなくなつた。

廿六年一月三日の「日の礼行進」には、四隊は最優秀隊の表彰を受け、大はり切り。此の要因はとうやう前年の全国大会の時の善行にあつたらしい。

さて、三月十日の四周年記念集會には又またスチキヤなゲーキ。これは天然色の写真がしまつてゐるから、見せるだけならいつでもOK。この時、かのオチヨンキスト・カオルの登場となる。へ海船註・與謝野馨君のこと。オチ代くま班班長。麻布中学。「オチヨン気」なる新語を発明した。現在エジプト滞在中。この年のクリスマスゲーキもみこはもので、飯田副長のデザインによるものである。

これで丁度八周年の半分まで来たので写真の袋をしまうことにするが諸君のうちで写真入用の方は御相談に応じます。  
(隊長。初代上級班長)



## 僕の思い出

### ゴジラ

サイトに荷物を下ろしたら、もつろぐのがいやになつたが、まだテン

僕がボーイ・スカウトに入つたのは、小學校六年の終り頃であつた。

杉原さんのしようかいで、僕は道下君と一しょに仮入隊員としてわし班に入つたが、この班には僕より少し前に犬塚君や小北君が入つていた。

僕は杉原さんの家に遊びに行つては、結核法や、自機の由來などをならい、教會に行つて志水さんに試験をしてもらつた。

試験はいつも小北君や道下君と一しょにやつていた。だけれども入隊式は小北君、安達君、僕の三人で、ギマンフに行く前の週に、はじめに正式に四隊の隊員になつた。

ギマンフの思い出を一つあげてみよう。

はじめにギマンフに飯能(はんのら)に行つた時は、荷物がとても重かつた。どうやら二うやらギマンフ

ともたてていないので、つかれてはるのもむりしてテントをたてた。何しテントをまたたてたことがないのだから、何をやってよいのかわからなかつたが、みんながやっているのをまねしてやつてみたら、どうやら二うやらうまくつたらしかつた。

その時の班長は、今エジプトに行つてゐる與謝野君であつたが、何しろ御飯が余ると、自分は履べないで僕と小北君に食べ食べとむりやりに食べさせたのを覚えてゐる。

その翌年のギマンフの時は、僕は班長になつてゐたが、僕達の班のテントのそばに蛇が出て、それを班員が皆で退治してしまつたのをあぼえている。水汲みが非常につらかつた事も経けんした。さて理科の時間が終つたのでこれでやめよう。一水曜日三時限。(本名 川崎豊、上級班長)

# 八回目の お誕生日おめでとう

## 杉原 正

八年前にまか  
れた良き種が現  
在広く枝を張り  
多くの実を結び  
ました。カフヒ  
言フ弟達が沢山  
生まれて来、本  
当にうれし事  
です。一粒の種  
がここ迄成長し  
てくるのには多  
くの困難と苦し  
みが伴った事と  
思います。その  
困難を越えてこ  
そ現在の樹な良  
き実が立派に沢  
山結んだのだと  
思います。向標にスカウトに於て  
も言える事です。困難、苦しみを越  
えて来た人々も、新しい人にも、こ  
れからも決して楽しい生活ばかりで  
はないでしょう。が、しかし、枝が  
一つの幹につながっている様にスカ

ウトが互に固く手を握りふみ越えて  
行くならば、聖書にある様に、困難  
から忍耐を生じ、忍耐から練達を生  
じ、練達から希望を生ずることとし  
よう。

去年のキャンプが新しい人々に  
沢して桑存ものではなかつた様に、  
先輩たちは訓練に於てもスカウト精  
神実践に於ても幾多の困難を体験し  
これを踏み越えて来たのです。こう  
して八年前の礎が出来たのですから  
今度は我々が良きスカウトになるこ  
とです。良きスカウトになると言う  
ことは必ずかしいかも知れませんが  
世間の多くの人々がこの特別な服装  
をした我々の行動を注意深く見守つ  
ているのです。ユニフォームを着て  
は平かしくない人間になる様に、我  
々は努力しなければなりません。

我々のまわりにはいさ子伏達は必ず  
しも良い道かや反逆ばかりに惹かれ  
てはをりません。我々の任務は重大  
であると思ひます。次の日本を任み  
よくする為にも、一人一人が良きス

カウトになる様に努力しましょう。  
野外活動に於て健全な身体を作り、  
楽しくみんながスカウト精神を身に  
つけて、世の中のためにも少しでも役  
に立つ人となりたいものです。これ  
から奮つてゆく若い人達のために、  
叔達は良き手本となりましょう。  
良き土地に落ちた種は、きつと  
立派に成長して沢山の実を結ぶこと  
でしょう。

叔達は特に素直でありたい。この  
記念すべき時にもう一度振り返って  
記憶しに。四級のスカウト運動の  
上に思ひあれ。困難を踏み越え、自  
己をかえりみ、共に祈りつゝ、一歩  
一歩元氣にスカウトの道を前進した  
い。一度スカウトになつたり永遠に  
スカウトである事を忘れず、この  
記念すべき良き日に増えましょう。

(副長補、中三代わし班班長)





# 山岳部員と

## ボーイスカウト

### 安積發也



中学三年から山岳部に入った僕は  
 高学年になつてからも山岳部を続け  
 る事にした。曰比谷高学年と言ふ名  
 の電車、じやなくて、人間は、嫌な  
 奴で、何とか人をくさしたがる。山  
 男、山岳部員だつてその例にもれず  
 である。「何だ、君はボーイスカウ  
 トか。ありや一休何だい。」「やめ  
 ちやえ、そんなの」「変な服装で交  
 通整理なんかしてらるだらう」「俺の浮  
 校でも入つてた奴が尻尾を皆出さ  
 ない奴ばかりだつた。」「アメリカ  
 の真似。」「少々早退調。」これが  
 二、三某の先輩から稽んでくる言葉  
 である。

こゝでカッヒ頭に血がのぼちや  
 たりしたりお終いである。そこは  
 君、に突然としてニヤリ／＼と笑つ  
 ている。「それじゃ、ボーイスカウ  
 トとは何を目的として、どんな事を  
 やつてゐるかよく知つてゐるんですか。し  
 最として善なし。「皆知らないうで  
 すよ。知りもしないで批判なんて出  
 来るもんじやない。」「しかし何と  
 なく虫が好かない。」「そんな抽象  
 的な事じや駄目ですよ。ボーイスカ  
 ウトとは……」こゝで君もさういふ  
 目的を述べ、早退調の二つではない、  
 世界に反を持つたスカウトが、世界  
 の平和にだけ興味をもち、浮  
 校でも家庭でも浮べない事を言ひ、  
 曰々の生活に自慰が出来る。何より  
 も少年時代の生活が楽しく、又それを  
 思い出となる、等々。しかし彼等は  
 容易に納得しない。

か、彼等、山へ行けば奥に良い兄  
 貴であり、友達である。時には彼等  
 持つ綱に全生命が託される事もある  
 のだ。

しかし彼等は、山へ行つて初めてボ  
 ーイスカウトの有難さを知るのであ  
 る。彼等の作る飯と未だにたまりな  
 い。何しろ食えれば良い。食わねば  
 歩けないから、てな者へを持つ連  
 中である。そこで僕が、長年鍛えた  
 腹で胃いものを作ると感嘆する。口  
 一フワクは山にとつて只草の出  
 来ぬものである。地図、方位、ギヤ  
 ンア、信号。

こんな話を、類同な彼等も次第に  
 スカウトと言ふものを認めてきてい  
 るのである。勿論、スカウトの事を  
 よく知つてれば山などは天又天など  
 と昔へたり、しんでもない開道で、  
 山はそんな生易しいものではないが、  
 スカウトと山とは、僕等の心、切つ  
 ても切れぬ縁がある様に思われる。





白

おめでとぅございます。

同じ機会に住むカールスカウト東京第四団より、心から

のお祝いを申し上げます。

私達の兄弟分である四隊が今日

の如くに遠発展された事は、本當に素晴らしい事と、その八年間の死生上の人物が一人一人に拍手をお送り致したいと思ひます。

四十七年前のイギリスにおカールスカウトがはじめてありてより一年後に「私達もあゝ言う事したいなし」と思つた少女達によつて、カールスカウトは結成されました。今から八年前の鹽崎坂に於ては、おカールスカウトが結成されてからわずか四月の後、私達のカールスカウトが誕生したのですから、結成當時



祝

井

い

カールスカウトの活動ぶり、イギリスのオースカウトより一紙上今日アタリかして、なほと感心して居ります。八年間なんて直ぐ経つてしまふ筈ですが、八年間と言ふ、今、最

年少のボトイスカウトがや々七

三ツが四ツになつた頃でしま

喜

うし、感心するはが学級

の五年生でしまふ。望重

久

返してみるし、四、

の  
子

五年の頃は、おカールスカウトとか、

言

葉

百社会的な活動に参加する事に満足を感じるのであらうですから、丁度

の頃にボトイスカウトが結成されて、そのメンバーに加はり得る事は、本當にノノ幸福ですね。

さて、今度は隊長、副長さん達の八年前。中野二年生——「彼等の食糧は驚くべきものになる」が普通に

ある。と云われる頃でしようね。

とにわく、八年間もあれば、智慧も

体も育ち、良い事も悪い事も、充分

出来ます。皆様が十周年記念をお迎

えに存する時に、隊長、上級隊長等の顔ぶれもかわつて居りますし、

隊旗のりばんもふえて居ることでは

しょう。どうも、八年間に榮え上げられて来た「優秀な四隊」を、増々磨きあげ、皆さんの、そして私達の誇りとする隊になられます様、皆さん

お一人一人の活躍を期待致します。そして、どうも今後とも、私達がカールスカウトの良き助言者であり、仲間であつて

下さいます様、よろしくお祈り致します。

（カールスカウト東

京第四団

リーダー）



# 生活 スカウト 渡 辺 澄

僕が東京第四隊に入隊となったのは、輕入隊となったのは、輕正書の示す通り昭和二年五月五日だ。僕がこうして三指の敬礼をするようになったのは、当時、隊長であった今井さんと父とが知り合ひで、僕も今井さんの家へ遊びに行ったり、今井さんも僕の家へ遊びに来たりしたためであった。

其の頃、一ツ木の円通寺に中隊があつてスカウトの格好等は度々見て知つてはいたが、いざ自分が入つても未だピンとはこなかつた林だ。坂本さんに連れられて僕はツバメ班に入った。班長は川並さんと安積君も同じ班であつたと思う。

仮入隊の頃の僕は全然自立出来ぬ存在であつた。今でこそ仮入隊スカウトも一語にどこかへ出かけるが僕が仮入隊の時はどこへも行かなくなつた。九月十六日初級に合格し、そ

の年のクリスマスに入隊式が行なわれ、嬉しさでよくよくする林を保持で小崎静子先生にネツカチーフを結んでいた。切論、ケイギを皆と一語に食べたのも、その時が初めてだった。

其の時からすでに四年余り、僕もやがて高校三年になろうとしていゝ。随分いろいろな事があつた。ギヤンが丸固、ハイクには十回以上行つた。楽しい思い出だ。だけど、もし僕がスカウトに入つていなかったらどうなつたか、それは誰にも解る筈がない。だが僕は余り良い方には向つてはいなかつた。麻布中隊に入つてからもいろいろな誘惑があつた。それも皆、スカウトの根を思い出しては踏み止まつた。誰か笑いたくなる人がいるかも知れないけれど本当なんだ。君はスカウトについて真剣に考へて見た事があるかい。良く考へて見給え、楽しいものだ。そしてとっても大切な事だ。世界中のスカウトが

皆、兄弟なんだ。そんな事ウソだつて。いや僕はウソとは思わない。同じ歌をうたい、同じ掬を守り、同じ精神の下に生きるものが、兄弟と言えないだらうか。切論、兄弟だとして喧嘩もする。だが喧嘩をしてもやはり兄弟は兄弟だ。

四隊も今や兄弟六十人にもなつた。僕は本当に皆、兄弟だと思つてゐるのだ。カツケンだつて、道下君だつて、大谷君だつて、僕の弟だ。それに兄貴もいるんだ。沢山。姓名こそ皆違ふが。これからも、此の考へは僕のスカウト生活——多分一生続ける積りだ——に多くの神をもたらし、より一層楽しいものにするだらう。



(隊付。  
才四代上級班長)

# 「米」君大いに語る

## 炊事具のない時の炊事

飯田 貞雄



私の名は「米」です。私は炊かれると「飯」となって皆さんのお腹の中に入り、他の食物と一緒に皆さんの腹を満ちし、命を守ってけます。ギョウゾで新米のスカウトは、よく私をあげさせて黒くしたり、火の使い方があまり上手でないので「飯」になりでてくれない事もあります。でも、大部の皆さんは、飯盆や釜をつかつて私をおいしい「飯」にするこはわけない事でしょう。そこで、もしです、飯盆はもうらん、アルミ鍋のような炊事具もない時、どうして私を「飯」にさせてくれますか。「そんなこと出来るはずがない。しと盛える人もいるでしょう。又、コエヘン、之、まずお湯をのんでおさまして、適当に米をお腹にいれるのであります。」なんて言う人は誰です。そんなことしたら

私は怒って皆さんの腹を今カチカチ痛くしますよ。さ、ほんとに皆さんの飯米ないでしょう。

私は、その炊き方についで、おまへスカウトが少年団と言つては、僕の「少年団員の格闘」と言う本の中で読んだことがあります。それでは知らない皆さんのために紹介しましょう。

先づ私を飯盆の荒い底を洗って水に洗って、外側から皆さんの手でよくもんで洗い下さい。こうして私を飯盆にま、良く水に洗って、適当に土を洗く掻いた穴の中に埋めて、上から軽く土をかいてその上で薪を燃すと、いとも簡単に私はおいしい「飯」になることが出来ます。肉時作業として、ギョウゾでハイクでやってみてはいかがですか。

か、事故でその他で炊事具がない時のために必携で置いて下さい。皆さんがもし庭のすみずみで炊いてみる時は、土がきれいかどうかを確かめてからとないと、衛生的とは言えません。注意して下さい。ま、ギョウゾやハイクを山の山の中なら大丈夫でしょう。

では、たまには、私を変った炊き方でおいしく食べて下さい。

なお、此の炊き方について御質問や御意見がありましたら、筆者までお申し出下さい。



（副長、現代、炊事記）



眞面目を以て之命でありう。  
一年間隊長と云う熱心とは正  
に上級隊長たるにふさわしい。  
高橋隊長 (一隊書記)

その堅實とは書記としてうって  
つけである。七かくこうさう任  
事は時間と労力の犠牲が多くて  
自分も健康を慮り、種々時差等に  
少なくなるものだが、彼は隊会  
計をも兼ねながらよくこのハン  
ディギヤツクを克服して、並々  
補スカウトに達級した。

石田耕司 (一隊付)

ギヤマンに隊集会に、上級隊長  
を助けて活躍している。昨年、  
東京の一般スカウト特別訓練キ  
ヤマンに参加して以来、指導者  
として一般と成長した。昨年中  
に二級に達級し、スカウト連の  
多くは、彼が直接指導を以って指  
導したものである。

安積泰也 (一隊付)

かれ年々の名譽スカウト。優れた  
技術とスカウト精神は、山中

頭で行動された金口名譽スカ  
ウト訓練キヤマンで一層磨き上  
げられた。隊員の指導は自信に  
満ちて懇切丁寧。技藝訓練や  
各種の公け、行事に年少ながら  
指導者として活躍している。

渡辺 澄 (一隊付)

軍令の制限の爲に名譽スカウト  
送行の時には旅を呑んだが、卓  
越した技術と指導力は恐らく全  
団員のスカウトにも引けをとる  
まい。併しながら、上級隊長任  
任中の数々の功績はむしろ彼の  
スカウトラインに對する勇躍の  
態度と情熱に依るものである。

渡山泰次 (一隊付)

昨年のカアのマスコミ視念に  
は、出張先の名譽から旅費のま  
ゝ配けつければ程々に對する愛  
情は深い。カアの隊の備品採と言  
う地味だが、頑強な役を引き受け  
工旺日にはじんばに忙しくても  
廊内にいて俄り心を豊南坂に顔  
を出すスカウトの姿である。

杉原 正 (副長補)

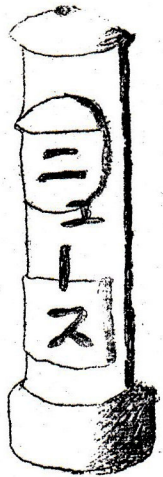
常に新しい料理法と献立を研究  
して、ギヤマンの紀の行事に  
は先頭に立って能をふるって  
いる。そのかたわり各班の炊事係  
を熱心に指導養成して回隊の食  
事に関する一切は彼が引き受け  
ている。集会には殆ど休まらずに  
カアの訓育に専らつてゐる。

感謝賞

遠山兼光 (一隊付)

回隊創立以来のスカウト、即ち  
陸軍八年の古株である。主屋肩  
書だけども、オニ代わし班班長、  
オニ代上級隊長、オニ代隊書記  
などなどである。既に相当以前  
から家業のため勤任を申し  
出していたが、指導者不足を理由  
に引き留められ、自分もこれま  
でに打ち込んだ回隊から急に頼  
れるふんざりがつかないままに  
今日まで奉仕して来た。他人に  
真似の出来ない彼の献身に對し  
たゞたゞ感謝するのみである。





### カブテレビに出演

去る二〇日(一日)午後〇時半から三十分間の日本テレビ「子供のパーティータイム」の時間に、東京のカブスカウトが小さいボーイスカウトとして出演した。四カブがらもカブ七人とデスマカーン人が参加して自慢の歌をうたった。

### カブ隊旗、できる

去月廿九日のカブ月例会の時、待望のカブ隊旗が月の輪代表大銅君からカブ代表三田君の手に渡された。これは、先はカブを卒業してボーイスカウトに上った三十人の月の輪のお母様方が、カブ隊への記念として寄贈されたものである。なほ、旗は成人の日本旗並に同じ色うように作られたので、すでにその時、四カブの

の先頭には此の旗が立るがえつて来た。

### 稲瀬さんの近況

スマイルの初代編集長、稲瀬さんは、田村町のキムラヤに勤めてかほり古頼になつてゐるので、指導部では皆を連れてパン工場見学にでも行こうかと考えている。なほ、仕事は大変忙しいようで、廿六日の祝会にも残念ながら出席出来ないの業者を頂いた。

### 介

先月号のスマイルで御存知のように、ボーイスカウトの

### 紹

〇・Bで作つた壘南坂ローグマースのアドヴァイザー石川さんが引き受けて下さつたが、今簡單に紹介をさせていただきますのである。

二四年四月 指導者講習を受く。  
二五年十月 十四隊副長となる。

二七年一月 十四隊隊長となる。  
二八年三月 就任と同時に隊長をやめてフリーとなる。

三〇年一月 壘南坂ローグマースアドヴァイザーを引き受ける。

なお、石川さんは中央大学工学部を卒業して現在、日本ナショナル金銭登録株式会社蒲田工場に勤務してゐる。

### 隊長ライオン歯磨え

私達の今田隊長は、この三月で慶応大学経済学部を卒業されるが、お勤めは、ライオン歯磨株式会社と決つた。その大変、今まで歯を磨いてなかつた人は今からでもおそくありませぬ。すぐ應をましよう。勤務時間はお時半までですが、壘南坂からさして遠くありませんから、五時にはあひさつソウヒーを皆の前にはめておきましょう。

# 健康に注意!

本誌に原稿を下さったカールスリカ  
ワットの白ネリターは、卒業試験勉  
強がたつてとうとう過労のために  
病質になった。二十六日の祝会にも  
お招きしていただいたが、残念である。私  
たちも健康には充分気をつけよう。

# 田中さん就転

老くま班班長の田中新二隊付は、  
電氣洋田教授と卒業後、明治大学  
政経学部にて在籍していたが、この  
ほどラジオ東京テレビ局に就転、  
電氣技術者として腕をふるって  
いる。

# ローウアース活躍す

二十三日の記念祝会に備えて、  
後でゆく人達の苦勞は大変なもの  
である。まず、四隊特製の「いな  
りずし」を作るために、杉原さん

は水曜日朝早くお揚げを煮始め、金曜  
日には九弁五合の飯炊き、すし作り  
み菓子の分配などに、石川、今田、  
志水、遠山、小舟、若口、ローアース  
が杉原コック長に命令一下大奮闘、  
水加減は知久さんのおゆさん、酢  
は杉原さんのお母さん、いろいろな  
おれものやかまどのお世話に知久さ  
んのおゆさん。まさにその道の叔成  
を總動員して夜おしくまで、すし作  
りにかンバった。

一方、大勢の入隊者のためのネッ  
カチーフは、水曜日に裁断を済ませ  
た今田さんの手から金曜日には渡辺君  
の所に渡り、アベさんは一日中暮用  
の手つぎ足つきでミシンをかけ続け  
た。

# 人造米事件!!

すしのための御飯は釜の都合で三  
回に分けて炊いたが、二度目の御飯  
がのりや椀にケチマクケチマになった  
ので大さわぎとなりたが、わてン明

るい所で調べたり犯人?は人造米と  
分り、上の方ニチチはどすくすく  
みたら下は塩麹の天然米がおいしく  
炊けていたのだとわつと安心した。

11月

# 会計報告

前月繰越	760.00	前月繰越	1,065.00
月費 (44人)	1,320.00	月費 (28人)	1,400.00
雑費	100.00	雑費	50.00
雑入	60.00	雑入	20.00
雑出	800.00	雑出	1,000.00
<b>3040.00</b>		<b>2,465.00</b>	
(除費) 型月繰越	3,040.00	技能章2ヶ	50.00
		登録用紙	20.00
		ネッカ4-F	1,000.00
		假没金	800.00
		型月繰	595.00
		<b>2,465.00</b>	

# 四隊史年表

(上)

昭和廿二年

二月一六日 教会の伝導集会后

今井、ウイリアムス両氏紹介。

二月二二日 発足

わし班 (班長小崎)

ライオン班 (班長荒垣)

三月一五日 西樺小学校グループ

カヒ合併す。

五月一七日 カ一回ラリー。

於神宮外苑。

六月二八日

とら班 (班長小崎)

ライオン班 (班長荒垣)

わし班 (班長志水)

七月二六日 ハイク。五隊と合

同。金沢八景。

八月一四日 (一七) 五隊と合

同キヤニワ。五日市瀬武蔵引

田。

昭和廿三年

二月二一日 一周集會。

三月十九日 全隊ハイク。特妻

幸一伊東。

四月五日 ガールスカウトと

共に食器工場見学。

四月一〇日

くま班 (班長小崎)

ライオン班 (班長荒垣)

わし班 (班長志水)

しろやう班 (班長今田)

五月八日 中野黒丁マリカニスラ

ールのカアラリーと班長四人が

参加。

六月一九日 東京大会。於常盤

小陸坂。

七月一〇日 ウェスト博士連博

式。於聖南球教会。

八月二日 (五) キヤニワ。

静岡赤木山。

八月八日 (九) 広島大会に

八名参加。

十月九日

上級班長 今田

くま班 (班長小崎)

ライオン班 (班長荒垣)

わし班 (班長志水)

十二月二四日 タリスマン大会。

昭和廿四年

一月一八日 ワシントンハイッ

のオアラリーに参加。

二月二六日 二期集會。

三月二八日 ハイク。石老山。

四月一六日 東京十隊より大屋

副長招請。

五月五日 子供レクリエーシ

ョン大会参加。於工野。

五月八日 母の日奉仕。於日

比谷。

五月二一日 キヤニワアライ

於聖居前。

五月二九日 登録承認。

六月二五日 今井隊長送別会。

大屋隊長就任。

七月一日 今井隊長後継。

七月二三日 御連行進。スカウ

トナイト。

八月 隊費二〇円に値上げ。

八月二三日 ハイク。選手。

八月二十五日 二六日 赤いオス

カントバカト奉仕。於東横。

九月三日 スマイル発刊。

九月二四日 二五日 全口大会。

於皇居前、日比谷。

十月一日 日米親善野球大会開

会式奉仕。

十月一日 八日 共同募金奉

仕。於銀座。

十一月三日 日米親善音楽会。

スホーツセンター。

十一月五日 上級班長今田。

くま班 (班長小崎)

わし班 (班長志水)

はやおさ班 (班長荒垣)

つばめ班 (班長稻積)

十一月三日 フィールド・テ

ィ。於放牧。

十一月三日 行方不明の仙人

神女捜索を手伝う (小崎、飯田)

十一月九日 ライオンズムス氏

誕生祝。

十二月三日 渡辺武副長に在る。

廿五年 昭和廿五年 皇居又之又夜祭

昭和廿五年

一月三日 日の丸行進。

二月二四日 三周年祝会。

三月一九日 動物愛護週間奉仕。

三月二七日 鬼狩り。於芝公園

四月一五日 二二隊に野外炊事。

三月二八日 全夜ハイク、熱海。

十口峠 箱根。

五月七日 子供の日加一テン

パーティイッ参仰。於新宿御苑。

五月二七日 二八日、口際儀

帰記念関東大会。於本願寺。

六月二三日 上級班長今田。

わし班 (班長遠山)

りす班 (班長田中)

はやおさ班 (班長石田)

つばめ班 (班長川並)

仔羊班 (班長班、班長小崎)

六月二五日 R、L、J、J、J、J

氏を病床に見舞う。

七月二八日 今井氏帰国。

八月九日 一二日 東京マラソン。

埼玉新聞又原稿。

八月一八日 二〇日 全口大

会。於新宿御苑。

八月二八日 自転車ハイク。

九月二五日 今井氏歓迎会。

九月二九日 岩川七笑リサイテ

ル奉仕。於日比谷。

十月七日 共同募金奉仕。

十一月一八日 ウィリアムズ氏誕

生祝。

十一月二六日 日米交歓馬術大会

奉仕。於皇居前。

十二月二五日 クリスマス祝会。

昭和廿六年

一月三日 日の丸行進。

優勝隊の表彰を受付る。

三月一〇日 四周年祝会。

三月二五日 赤いオスと早天祝

拜。於皇居前。

四月一五日 大屋隊長二一隊へ

移る。

渡辺隊長就任

上級班長藤次。

つばめ班長日青木となる。

五月五日 教会バカリ奉仕。

カーテンパーティー

奉仕・於新着御苑

七月二六日、二九日 夏の村

参加。於西武園。

八月四日、八日 全口野営大

会。於山形県蔵王。

八月 キャンプ。

埼玉県本庄。

十月二七日 子供会

に二名参加。 御連ナイトハイク

十一月三日 台階読書大会、飛

筆居前、日吹谷。

十一月一九日 ウィリアムス氏

誕生祝。ナヤマルセンター。

十二月一九日、二二日 孤兒訪

向クリスマス奉仕。

十二月二二日 クリスマス祝会

昭和廿七年

一月三日 行進。

一月五日 連盟のハイク参加。

道子一久里来。

一月二七日 冬休み。於来館宮。

二月二三日 五福軍祝会。

三月一日

上級班長 遠山

フバめ班 (班長青木)

かし班 (班長杉原)

はゆふさ班 (班長石田)

くま班 (班長田中)

三月八日 口際すいか奉仕。

於メモリアルホール。

三月二八日 全夜ハイク。

マロツ峠。

四月一九日 一級スカウト生。

五月 スマイル体刊す。

五月一日 キャンプアライズ。

於日比谷公園

七月一九日 上級班長遠山。

琴屋班 (班長渡辺)

かし班 (班長守積)

はと班 (班長石田)

くま班 (班長與謝野)

七月二三日、二六日 キャンプ

埼玉県本庄村。

八月一日、五日 夏の村参加

於中河原。

八月二日 又花被送贈者。

十月一日 朱肉基金奉仕。

十一月八日 シ又花被送出履。

十一月二二日 ウィリアムス氏

誕生祝。

十二月二七日 クリスマス祝会

次号へ続く

### 後記

茨山が原編が奇せられ、感謝してをります。記事及今年表付巻頭蛇尾に終つてしまいまし、Eが、お許し下さい。スマイルの発展を祈ります。(S)

## スマイル

昭和三〇年二月二六日印刷発行

発行人 今田 富士雄

編集人 志、水 功

印刷所 東京都港區赤坂 靈南坂教会

発行人 日本ホリスカフ 東京市四條

誌 関 機

# 會計收支決算書

自 昭和29年2月1日

至 昭和30年1月31日

## 収入の部

前期繰越金	7,202.00
隊費(257名)	7,710.00
育成会費(361名)	15,370.00
入隊進級費	1,950.00
登録費	2,770.00
キャンプ参加費	21,800.00
記章費 <sup>(註1)</sup>	1,834.00
育成会補助金	5,500.00
クリスマス会費	1,700.00
謝礼金 <sup>(註2)</sup>	1,500.00
カブより祝会費	2,400.00
寄附	3,126.00
臨時会費(講習)	940.00
比島大会銭別	1,560.00
雑収入	68.00

76,430.00

## 支出の部

キャンプ費	22,941.00
登録費	3,951.00
記章費 <sup>(註3)</sup>	6,668.00
備品費 <sup>(註4)</sup>	8,330.00
隊補助金	5,500.00
年少幹部訓練費	900.00
指導者養成費	1,200.00
祝会費 <sup>(註5)</sup>	9,676.00
機関誌費	1,073.00
運営費 <sup>(註6)</sup>	6,240.00
交通費	1,655.00
営繕費	530.00
比島大会銭別	1,500.00
立替金	252.00
雑費	1,075.00
次期繰越金	3,635.00

76,430.00

(註1) 技救 能急員 章章 794.00  
1,040.00

(註2) 営日 火連 指奉 尊仕 1,000.00  
1,500.00

(註3) 進技役救員ネ 能務急員名カチ 級章章章章代 1,025.00  
1,148.00  
1,725.00  
1,180.00  
1,600.00  
1,990.00

(註4) マテ救かホ磁カ グン急リウ ラ慕 材ト品版キ石ギ 2,980.00  
2,200.00  
2,365.00  
2,500.00  
90.00  
1,200.00  
75.00

(註5) ク誕 リ生 マ又日 3,171.00  
6,505.00

(註6) 連慶平通謝記ハ茶ラ 盟務信 担用 金費費費儀費查代費 1,250.00  
2,400.00  
2,140.00  
1,590.00  
250.00  
200.00  
210.00  
1,435.00  
200.00

表紙  
カット 飯田貞雄